

私たち、聴覚障害者は聴力や環境によって聞こえ方もコミュニケーション方法も1人ひとり違います。補聴器が見えなければ見かけは「健常者」と変わりません。これが私たちの大きな悩みです。

コロナ社会とマスク社会を共に乗り越えるために少しでも私たちの悩みに関心を寄せて頂けると嬉しいです。私たちは、

「聞こえない障害」でもありますが「何を言っているのか分からない障害」でもあるのです。

神奈川県聴覚障害者福祉センター
HP: <http://www.kanagawa-wad.jp/>

きこえの悩みには、個別の相談を行っています。来所相談では、乳幼児・学齢児、成人ろうあ者、中途失聴者・難聴者が対象です。また、耳鼻科医師による医療相談も行っています。原則として予約制です。事前に必ずご連絡ください。電話、FAX、メールでも予約できます。相談は無料です。

詳しくはホームページ(⇒
QRコード)をご覧ください。



特定非営利活動法人 神奈川県

中途失聴・難聴者協会

わたしたち「^{じんなんちよう}神難聴」は、1980年11月より活動しております。神奈川県(横浜市・川崎市を除く地域)を中心とした中途失聴・難聴者の集いです。

2020年に40周年を迎え、協会の更なる発展と中途失聴・難聴者の社会的認知を広げることが目的とし、法人化致しました。私たちは聞こえに困っている方のために交流の場、学びの場を提供している団体です。手話、要約筆記を含むトータルコミュニケーションを研究・実践し、聞こえにくい方にも住みやすい社会を目指しています。会報を年4回発行、手話勉強会(藤沢・海老名)など活動をしています。もしも、一人で悩みを抱えているようでしたら、協会の行事などをちょっとのぞいてみませんか? 同じ立場の人たちとの出会いが、新しい人生の推進力になるかもしれません。いつでもお気軽にお問い合わせください。一同、心から歓迎いたします。

発行: NPO 法人神奈川県中途失聴・難聴者協会

HP: <https://jinnancho.org/> ↓QRコード

〒251-8533 神奈川県藤沢市藤沢 933
神奈川県聴覚障害者福祉センター 気付
【問い合わせ】事務局

mail: jinn.nannchou@gmail.com



聴覚障害と マスク

マスクのわずか 1mm の厚さは
私たち聴覚障害者にとって
コミュニケーション上では
10m以上の壁になります



耳が不自由です



耳マーク

はっきり口元を見せて
話して下さい

監修: NPO 法人神奈川県中途失聴・難聴者協会



聴覚障害の種類

聴覚障害は3つの種類があります。

1. 感音性難聴

聴覚障害の中で割合が大きいと言われており、音の大小に関わらず「何を言っているのか分からない」難聴のタイプです。「たかはしさん」が「あああいあん」というようにゆがんで聞こえるため、音を大きくするよりも「何を話しているのか」を伝えることが大切です。

2. 伝音性難聴

鼓膜などが障害されることによって、音が伝わりにくくなったり、特定の音が聞き取りにくくなるタイプの難聴です。音を大きくすれば伝わる時もありますが、全ての音をききとれるわけではありません。

3. 混合性難聴

感音性難聴と伝音性難聴を併せ持つタイプの難聴です。音が入りづらく、音が入っていたとしても不明瞭なので、耳を使って聞く事は非常に難しいです。

神難聴中途失聴・難聴者向けの 手話勉強会に参加しませんか？

毎月第2火曜日は海老名福祉会館で、第4火曜日は藤沢の神奈川県聴覚障害者福祉センターで行っています。詳細は、HPをQRコードからご確認ください。



私たちに気付いてください

聴覚障害者である事に気づくサインがあります。

○耳マーク

耳が不自由な事を表明するマークです。形状はバッジタイプ、カードタイプなど用途に合わせて様々です。



○補聴器

形状は様々ですが、聴力障害の程度に応じ、形状は様々です。補聴器を装着していれば必ず聞こえるわけではなく、聴覚障害者によって聞こえ方も様々です。



○人工内耳

外科的処置により、内耳に電極を取り付け、音を信号化し内耳に直接送る装置です。補聴器同様、装着者によって補聴効果は様々です。



○手話

聴覚障害者の言語で、独自の文法体がある視覚言語です。



要約筆記者の派遣制度があります

話されている内容をその場で要点にまとめ、文字にして伝える情報保障(通訳)です。手書きとパソコンで伝える2つの方法があります。会議や自治会の集まり、学校、懇談会や病院受診などに派遣利用できます。

まずはお住いの市町村障害福祉課窓口にお問い合わせください。



配慮をお願いします

私たちは、このような配慮をして頂けると助かります。

○筆談

聴覚障害者は全ての人が手話や聴力活用ができて



いるわけではないので、文字に書いて伝えてください。

○伝える瞬間だけマスクを外し、口元を見せる

「何を言っているのか」を判断するため、小声で構わないので、伝えるときだけマスクを外し、口元を見せてください。



—これは避けるようにお願いします—

○マスク越しに大声で伝える



私たちは音を大きくすれば聞こえる障害ではなく、「何を言っているのか分からない障害」です。マスク越しに大声で話されると、不明瞭な音声が補聴器によって増幅され、益々分からなくなります。また、だんだん音量が大きくなると、怒鳴られている感覚に陥る方もおり、精神的なストレスが増し、コミュニケーションが怖くなる方もいます。